內閣情報部編輯

寫眞週報

昭和十三年三月十二日　第一種郵便物認可　昭和十三年三月三十日發行（毎週一回土曜日發行）　第七號

祖國振興隊

肇國の地に起てり

盟邦イタリーの素描

陸軍檢閱濟

7
13・3・30
10セン

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八紘一宇

神武天皇日向より御東征の途に上り給ひしより六年の間、幾多の困難と闘ひ給ひ、皇兄五瀬命を失ひ給ふ程の御悲痛にも屈せられず天神の御子としての御信念と天業恢弘の御精神とに依つて、遂にその大業を成し給ひ、紀元前二年未の年即ち紀元前二年三月七日都を大和の橿原の地に奠め給ふた。その時の詔勅に「六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩ひて宇とせむ」と仰せられ、皇祖の神勅に基きことに我が國體永遠不變の大本を明かにし給うたのである。

橿原神宮

体位向上
銃後の備へ

國民精神總動員

鐵道省

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

黄河へ！黄河へ！

去る二月十一日、紀元の佳節を卜して一斉に開始された我が黄河作戦は、北部河南及び南部山西の敵約四十個師に對して神速果敢な攻撃を敢行し、行動開始後僅々一ケ月の間に正面約百里、縱深又約百里に及ぶ大地域を一挙に席捲したその戦果は實に我が戦史に一異彩を添へるものであつた。

今回の黄河作戦に當つてはわが軍は太原、楡次、邯鄲、彰德附近から行動を起し、正面約百里の間に十數本の作戦部隊を進め、太行及び連枝山々脈の峻々たる山地を各部隊が分進合撃して敵を掃滅、あるひは寡兵以て敵の側背を衝いて大軍を走らす等、皇軍作戦の妙を極め疾風の如く黄河へ黄河へと進撃したのであつた。

然しこの間皇軍將士の辛苦は、永に苦しみ、あるひは道なき山野に土を盛つて兵車を曳く等、筆舌を絶したものであつたが、ひと度敵を見出して進撃戦にうつるや、人馬共に實に意氣を揚つて荒野をゆく戦闘の壯觀味もあつた。

今や我が軍は大黄河を掌握して、敵の本據漢口も河南安徽の大平原を隔てて、百里の距離に短縮され、眞に皇軍の進む所何物も阻止することの出來ないことが愈々明かとなつた。今後彼等が如何に長期抵抗に足掻かうとも、我も亦長期膺懲を加へんのみである。（詳細は週報第七十四號「北支五省蠢く掌握す」參照）

砂塵を蹴つて進撃又進撃

水一杯しい谷間の水

黄河附近の山間に工兵隊の活躍

大黄河を眼下に突角陣地突撃の皇軍

山嶮の難路に勞苦を重ねて

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

描素ーリタイ和盟

善親日訪トスシアフてへ迎を團節使

⇧イタリー訪日親善使節を迎ふ

日伊親善の歴史を飾るファシスト訪日親善使節團、パウルッチ侯をはじめとする一行二十二名は我が朝野を挙げての歓迎のうちに三月十七日長崎上陸、十九日晴れの帝都入りをした。"世界平和と正義の理想に結ばれた東京ローマ防共枢軸の誓ひはこゝにいよいよ固く、日伊兩國の歴史的交驩は交されたのである。"

廣田外相（中央）と世紀の握手を交すパウルッチ侯（右）左はアウリッチ伊大使

⇧イタリー北部ロンバルチヤ平原にあるオルタ湖。彼方にはアルプスの山々かそびえ、夢のやうにサン・ジウヨの孤島が浮んでゐる。

⇧関兵の暇に土地の女子供たちと親しむムッソリーニ首相――ボーテンツアにて。

⇨ヴェニスの裏町、――わびしい詩情を湛えて、ゴンドラよ、運河よ、石造りの窓々よ！

⇧ナポリのボルサ廣場。美しい大理石の噴水にも、石だたみの坂路にも、華やかなかつてのナポリ王國の傳統が偲ばれるのだ

⇨全國民待望の「リットリオ」が行はれるローマ競技場（フォロ・ムッソリーニ）の一部

はるかヴェスヴィアス火山を望む、絵のやうなナポリの街と海。イタリーの丘には至るところ傘松特有の松がある。

⇧アドリア海にのぞむ水の都ヴェニスの巨刹、羅馬カトリックのサン・マルコ寺院。ルネッサンス、ビザンチウム、ゴシックと三つの建築様式が入亂れて巧緻を極め、無數の鳩は人々の頭上を飛びかひ、清らかなそしてあでやかな平靜をかもし出してゐる。

親善使節來る

一九二二年、世界大戦後の渾沌たるイタリーに、憂國の黒シャツ隊ファシストがムッソリーニ現首相を先頭に、歴史的な「羅馬への行進」を敢行、職能組合國家政權を確立してこゝに十有五年、その間、社會經濟生活の改善、エチオピア併合等、幾多の苦難をものともせず、枚々たる國家經營の歩みをつゞけて來た。――「石しろく、オリイヴの小暗きところ」と歌はれたこの地中海の一王國は今や獨邦日獨二國とともに颯爽たる新興國家として世界の舞臺に登場してきてゐるのだ。

今、東亞の盟主日本との絆をいよ〳〵強く結ばんと、ファシスト・イタリー訪日親善使節團パウルッチ侯一行は三月十九日帝都に到着、全國朝野を挙げての歓迎プログラムにうづめつくされてゐるが、この時に當つて我々は南歐の友邦をたゞ「長靴の國」、「ルネッサンスの國」として見るに止らず、古代ローマ帝國再建の雄大なラテン民族理想の下に、單純明快、計數と達觀をとび越え、獨自の氣質性格としてあらゆるものを率直に表現し克服してゆく、ファシストのこの精神に注目しなければならない。

日伊の類似性

イタリーをわが國に比べると、たくさんの似通つた點を發見することが出來る。伸張する國力、感奮しやすいその國民性、人口の稠密なること、古來の農業國から水力電氣等によつて工業立國の道を辿りつゝあること、地震の多いこと――等、歴然たるである。

イタリーの地理

イタリー現在の人口は約五千萬、ローマをはじめナポリ、ジェノア、ミラノ、トリノ、ヴェニス、フロレンス等は著名な都市である。植民地としてアフリカにエリトリア、ソマリランド、エチオピアなどをもつてゐるが、この他にも南米、北米等國民は移住す海外に向つて發展してゐる。

ファシスト政權下のイタリー

イタリーにはブルジョアもプロレタリアートもない、たゞファシストがあるばかりだ。農、工、商、海、空、陸、金融の六つ宛の資本家側組合と勞働者側の組合、及び自由文筆業者等の一組合、合せて十三の國家公認の職能組合の上に、ファシスト黨の最高機關ファシスト大評議會があり、之が國家を導き、統治してゐるのである。

ファシスト諸制度のうちでも、ドッチエ・ムッソリーニが特に政治上の面子をかけてまで行つた國營の事業が三つある。「完全開墾」と「パリラ運動」（舊質週報第二號參照）と「義勇民兵の改編」とがそれである。そして、これら三事業は社會的、經濟的、思想的苦難の時代と、過渡期を通過して、今や着々と成果をおさめつゝある。

イタリーの社會

公共施設としての鐵道、商船、水力發電業等も目覺ましい發展を示しつゝあるが、又その他諸種の社會事業も活潑な活動をつゞけてゐる。就中イタリーの都市計畫は國家的大事業の一つである。新ローマの建設に當つてムッソリーニ首相は「二十世紀のローマは實用性と莊重感をもたねばならぬ。實用性は市の發展のために必要であり、莊重感は古代あるひは中世のローマを無視せず、二十世紀のローマの象徴として過去の榮光を次代に甦へらせるものである。ローマは凡庸な近代都市ではないからだ」といつて居る。

イタリーの國防と軍備

英、佛を向ふにまはし、地中海の雄として確固たる地位を築いたイタリーは、その國防的見地から必然的に戰鬪力の主體を、潜水艦、驅逐艦、航空機におき、獨特の驅逐戰術をあみ出してゐる。

殊に、近來輝かしい飛躍を遂げつゝあるのは空軍である。イタリー空軍の強味は、ムッソリーニ首相、バルボ航空相等をはじめ、金談長、司令官すべてが飛行機操縦の出來ることである。指揮官が先頭に立つて敵機中に突つ込んでゆく戰法は、わが荒鷲軍にも似てゐる。

ファシズムの文化

ファシズム文化は、驚異な文化の單位を創造するといふより、國策の線にそつて、古今内外の文化をファシズム的に綜合統制して現代イタリー人の理想とする立場によつて、これを發展させ表現するものである。その故にファシズム的ならざるもの、例へば個人的な自由主義とか、消極的な觀念主義とかは、すべて排斥されるのである。國民教育も亦當然この方向を辿つてゐる。

一般大衆の文化施設としては「ドポ・ラヴォーロ」（「仕事の後」の意）と稱する生活の慰安向上に働へる樂しいクラブがあり、又年一回全イタリー國民のスポーツ・美術・學術のオリムピックともいふべき大行事「リットリオ」がある。

日伊提携の道

以上が現代イタリーの素描である。――昨年忽然として世界を震撼させた日獨伊防共協定の成立と、それにつゞく、イタリーの滿洲國承認は、親日コースを行くイタリーの意志の表れである。

新たなる世界の秩序に向つて、イタリーに祝福あれ、日本とともに、ドイツとともに！（詳細は週報第七十五號「伊太利のファシズム」參照）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

⇨新興イタリーの建設ぶりを視察するムッソリーニ首相

⇧國家最高の機關、ファシスト黨大評議會

⇩エチオピアのアディス・アベバにもパリラは組織された。イタリー本國の黑シャツパリラとは反對に、銀白のユニフォームをつけ食事する黑人パリラ團員

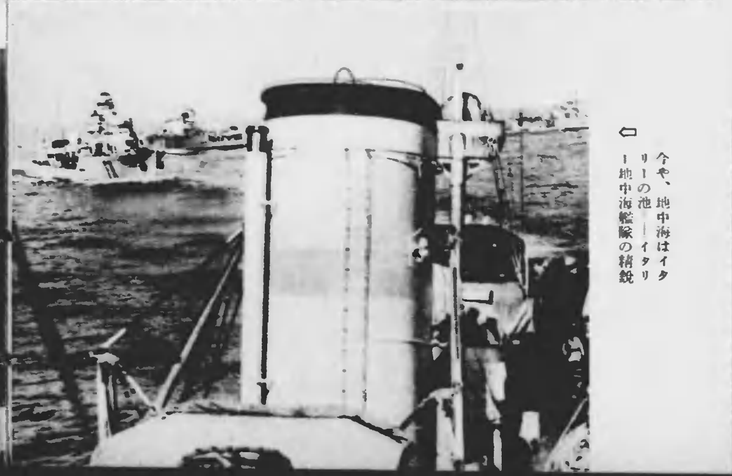
⇩エチオピアの荒野もトラクターで開拓されてゆく。寫眞は農民を激勵するアオスタ公

⇦幸福な幼兒ホーム——童話のやうな帽子をかぶつた心やさしい保姆の下に情操教育の施される積木細工の時間

⇩ファシスト黨歌も高らかに進軍のイタリー歩兵

⇧大國旅の下、ムッソリーニ首相の閲兵をうけるイタリー義勇民兵

⇩エチオピアへ積み出されるタンク



⇦今や、地中海はイタリーの池——イタリー地中海艦隊の精鋭

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

肇國の地に起てり　祖國振興隊

天孫降臨の聖地に祖國振興隊の蹶起

神州の最東端日向の國――肇國の地宮崎縣は、現在も、人口と土地の割合から見れば、その餘裕のあることは、全國第五位を占めてゐるにも關らず、山林の植樹すべき所五萬町歩、田畑の開墾すべき所一萬四千町歩があり、而かも既に開墾された耕地からの農産物收穫高は、全國平均反當り二石三、四斗に比して、僅か一石八、九斗であり、海岸線は七十七里、到る處魚族の棲息地帶であるが、これ又他國人の濫獲に委せ、何等搭養の方策を講じてゐない等、資源と開發力があつても、全國の富の平均一人當り二百四十圓に對し宮崎縣は僅かに六十圓代の水準にしか到達してゐない。

今や、我が國は、東洋維新の指導者として、劃期的な亙歩を遂ひつゝあり、國民擧げて試練の秋に直面してゐる。

神武天皇發祥當時の精神力、武力、經濟力を以て、日向の振興に當らう！躍進日本と共に、日向の維新を斷行しやう！日向の地を如何なる日本の地よりも優れたものにしやう！

祖國振興――理想の叫びは、野に山に海に漲湃として續いていつた。そして昭和十二年十二月二十二日、宮崎神宮の大前に集つた男女青少年の先驅者――三百二十四の祖國振興隊は、三本黒鉤に日の丸を描いた振興隊旗を、相川統營（宮崎縣知事）から授けられ、日向の天地に、經濟建設、勤勞倍加の雄叫びを擧げたのである。

今、祖國振興隊の長旗翻へり、日向の若き男子、大和撫子が、鍬を、鋼を、或ひは鐵槌を執つてゆく所、若興日向の資源は開發され、産業の豐かなる花は開く。

蹶起する勤勞倍加の戰士、祖國振興隊！　味爽の山地、月明の平原、春潮溢む海原に、大太鼓を打ち鳴らし、祖國振興の突擊隊よ、ゆけ！

振興隊の組織

祖國振興隊は、本部と地方部隊に分れ、知事が統監、本部長が學務部長、副本部長が學務課長、指導監に各部長が就任、その他關係各課長、主事、視學、技師を以て幕僚、部員を編成し、本部指導部を構成して居り、隊は、學校隊、男女青年隊、一般隊の三つに大別各隊は學校別、男女青年團別、職場別に依つて編成、學校隊は、學校職員を以て幹部を構成、男女青年隊は青年團幹部が指導に當つて居り、現在、隊數は三百九十二隊、隊員約八萬を數へ、中にも女子隊員の少女がもんぺに白鉢巻も雄々しく、鍬手に産業開發の武器をとり、勞働倍加の第一線に立つてゐるのは、刮目に値する。

隊旗と信條

振興隊旗は、男、横六四センチ縱二メートル、女、横五二センチ縱一、八四メートルの白地の長旗で、黒三線と日の丸が描いてある。黒三線は、神代三代（瓊々杵尊、彦火火出見尊、鸕鷀草葺不合尊）を表徴、日の丸は日本國家を表徴神々の後裔が日本國家を形成してゐることを現してゐる。神武天皇御東征に際し、その宏謨を翼贊し或ひは御聖戰の兵となつた祖先の熱血と、萬代に香る精神の繼承者たるふさはしい旗印である。隊旗は全部、宮崎神宮に奉納したものを統監より授與し、常時は氏神の社殿又は校舎工場内の神聖な場所に奉藏して置く信條は、一、我等は皇祖發祥の聖地に生れ天業翼賛の皇民の奇たるに感激し、我等は盡忠報國の精神に滿ち義勇奉公の赤誠に燃ゆ。

一、我等は勤勞を倍加し誓つて祖國振興の柱石たらん。

の三箇條より成り、此の信條を振興隊の百の理論を越えた、赤誠の行動綱領である。

朗誦文

振興隊には、作業前朗誦する「祖國日向振興朗誦文」がある。天高く日出づる國に霊境あり。地廣く、山河秀麗、民情醇なり。

毀くも、諸尊峻祇の濱、波は太古の響を傳へ、黍くも、天孫降臨の地、風は上代の調に通ふ。

養正・積慶・重禮の神德、宣揚せられし皇道樂土。三世の神迹昭々として、一土一水悉く、聖史と榮光とに輝く古帝州。……

に初まり、全三章、流麗の行文の間に、日向の持つ誇りと、蹶起する振興隊の炎のやうな理想が力强く織りこまれて居る。

朗誦文は、振興隊團結の合言葉であり、全國青年の先頭に掲げる新青年運動の宣言であり、又、腕を組んで進む、産業突擊隊の大合唱である。

作業

作業に出動する時は、隊長の命令に依つて作業を選定し、隊旗を先頭に隊伍堂々現地に赴き、作業開始前、

東方を遙拜、君ケ代を齊唱、宣誓を行ふ。宣誓は、振興隊の信條・朗誦文の朗讀である。作業は一切隊長の指揮で、一切無言で、與へられた仕事に全力を傾注する。天地自然と一體になり、我等の勞働は、祖國の開發と共に我等の修業であるといふ。堅い信念、勤勞への歡喜は、一切無言の中に、大きな力となつて湧つてゆくのだ。作業中は、隊旗を中央に立て、作業開始、休憩等すべて太鼓をもつて合圖をし、一時間毎に約十分の休息をとる。終了すると、全隊員が隊旗の下に集合して、天皇陛下萬歳！　を三唱、次に祖國振興隊萬歳を唱へ、再び隊伍を整へて歸り隊旗を奉納、解散するが、時間は各隊に依つて一定せず、學校振興隊は、土曜の午後、日曜日、青年一般隊は、公休日等を選び、光花隅なき月明には、夜の山野に隊旗を押し立てて、開墾の鍬を振ふこともあるといふ。

作業の實績

祖國振興隊が起つて僅か三ヶ月然し、山野開墾總計七十町歩餘（二月初め調査）の他、植林、樹木伐採、切地、砂利採取、改修埋立工事、神社墓地清掃、茶樹植付、勤勞の他に素晴しい成績を擧げ、勤勞倍加に依る收益の愛國貯金は、二百三十七萬六千九百十四圓の多額に上つてゐる。

現在は、學校隊、青年隊、一般隊の三隊であるが、祖國振興隊の此の短時間に於ける實踐の成果は尚、壯年隊、老年隊も結成される氣運にある。八十五萬縣民が一齊に祖國振興隊旗の下、勤勞倍加運動に參加する時、神洲日本の祖國は、再び新興日本の大理想建設の國として、更に燦き光輝を加へるだらう。日向の若人、祖國振興隊に、榮光あれ！

神殿より隊旗をうけて作業に出發する高城町女子青年隊

隊旗とひるがへる隊旗の下に友邦ドイツの青年省莊日代表シュルツェ氏を迎ふ

早朝、作業地に向ふ高城町青年隊

除歌も高らかに道路改修用の砂利採取に向ふ延岡中學生隊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

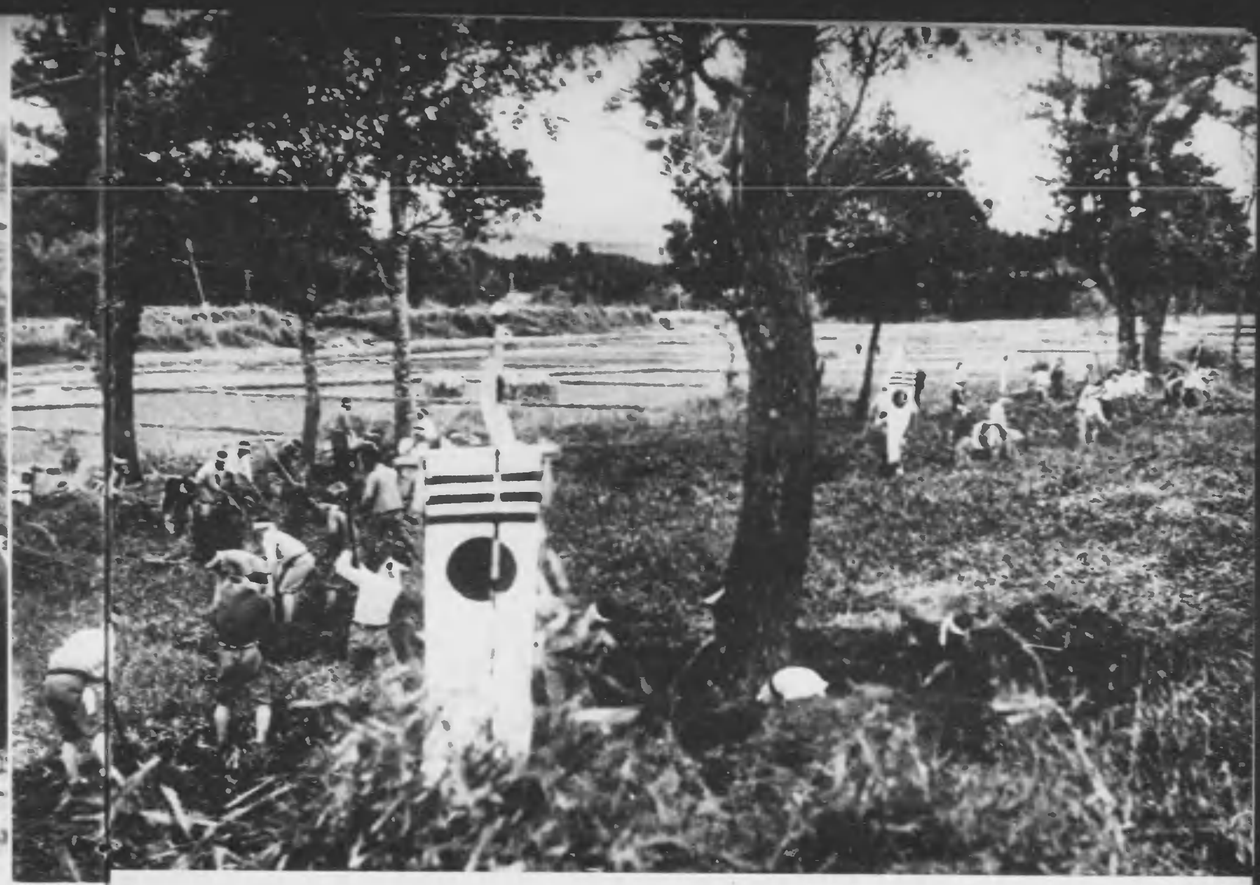
[illegible]に入る[illegible]族の子、[illegible]採取作業に汗ばむ[illegible]青年隊、[illegible]女[illegible]校隊、同小[illegible]校隊

祖國復興隊の開墾ぶりを視るシュルツェ氏

狩團の若い力は、荒野もたちまち田畑に
——開墾に從事する高鍋農業學校隊

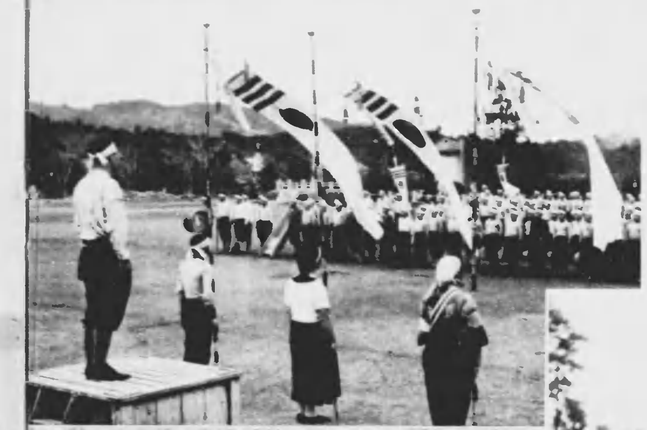
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

茶業試驗地開墾作業に一休み、飽じく晝食の都城高等女學校隊



⇧ 高城町青年隊の開墾作業

⇦ 砂利採取作業の高城町小學生隊



⇦ 曉の小學校庭に集合、作業地に向はんとする高城町女子青年隊、同實科女學校隊、同高等小學校隊

⇩ 作業開始前、先づ東方を遙拜君が代を齊唱して宣誓を行ふ縣下岩戸村女子青年隊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

閲覧室

圖書館記念日

文部省

わが國唯一の國立圖書館である帝國圖書館。國内で出版される圖書は凡て内務省に納本されるが、その納本は此館に保存される。その他幾多の貴重な古今の文献も秘蔵されてゐる。蔵書九十萬（銅像は小泉八雲記念碑）

四月二日

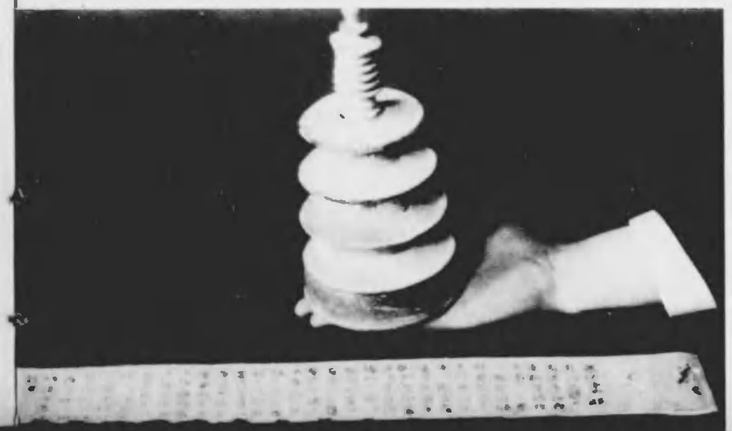
圖書館記念日

聖上陛下におかせられては昭和六年四月二日帝國圖書館長松本喜一氏を宮中に召され、親しく内外圖書館の事情並に近代圖書館の使命に関する御進講を御聴取遊ばされたが、斯の事業御奨励の思召の程も拝察せられ恐惶感激に堪へないところである。

聖意の厳大無邊なるに感激した全國の圖書館関係者は同七年五月東京で開催された第二十六回全國圖書館大會の席上満場一致を以て、四月二日を圖書館記念日と定め、年々感激を新にすると共に協心戮力斯業の發展に精進して聖意の萬一に答へ奉るべきことを決議した。爾來同を重ねること五回にして早くも本年は戦時體制下に第六回の記念日を迎へることゝなつたのである。

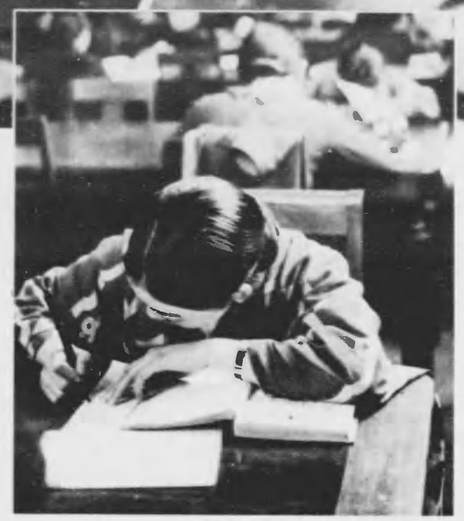
明治三十二年圖書館令が制定せられて以來、わが國の圖書館事業は長足の進歩を遂げたが、しかもなほ府縣立圖書館の設けなきもの一府九縣を算し、又市町村圖書館の如きは其の數、全國市町村數の半ばにも達しない有様である。全國大小の圖書館はその數五千有余と稱せられてゐるが、其大半は内容未だ不備にして、國民教養の向上に資するには余りにも力足らざるの憾がある。之をその規模、施設、運用共に眼覚しき充實を示しつゝある歐米諸國の斯の事業に比較する時は、著しく遜色あるを免れない實情である。圖書館は一國文化のバロメーターと稱されてゐるが、わが國の如き世界有數の出版國として年々三萬余種の圖書を刊行しつゝある國家が、かくの如き圖書館の現狀と利用の狀態に留まるのは、誠に遺憾の極みである。

玆に時局下の圖書館記念日を迎へるに當り、我等は更に圖書館事業の擴充發展を期すると共に、國民一般の斯の事業に對する理解と一段の利用とを期待する次第である。



孝謙天皇の御發願により印刷された陀羅尼。この陀羅尼は神護景雲四年に一百萬基の小塔に收めて奈良を初め攝津近江の十大寺に分納されたが、その一部分は千余年後の今日に傳はつてゐる。現存せる世界最古の印刷物である。

特別研究室には專門的な研究に没頭する人々の真摯な姿が見られる。



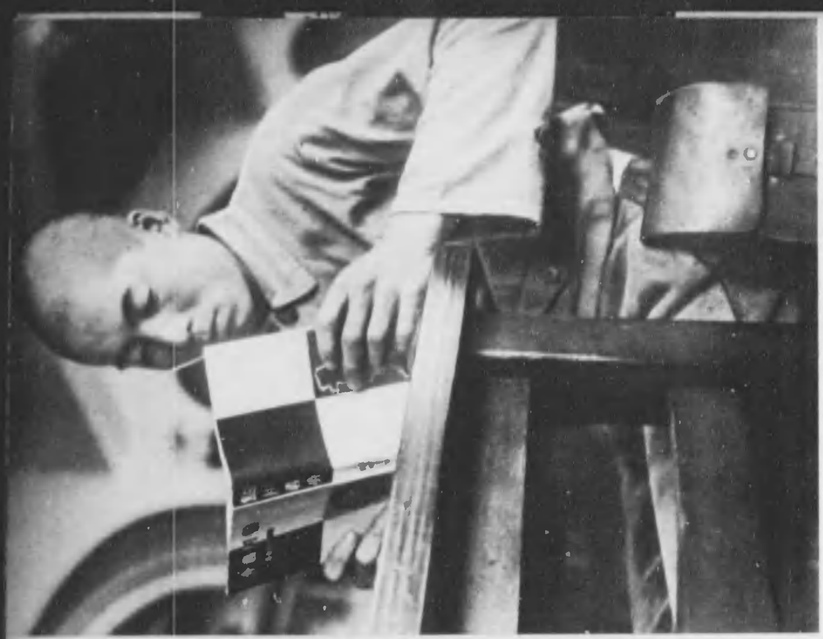
婦人閲覧室は時代と共に進む熱心な女性で満員である。

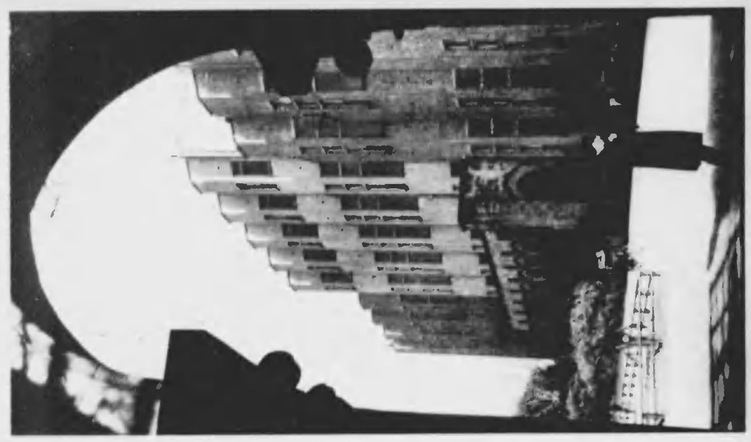
古寫本の日本書記神代の巻

假綴ぢの本や日々の閲覧で破損した圖書はこの様にして改装されたり、修理されてゆく。

（以上　上野・帝國圖書館）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/





⇧ 書籍館（東京帝國大學の心臓としては所謂圖書館）

⇧ 書籍は勿論の一隅、多數の雜誌（東京帝國大學新聞閲覧室）

⇧ ⇧ （上段）忙しい店員を利用しての小店書籍（東京・文學堂）

⇧ 各の研究室にとつて一番嬉しい書籍は研究室所屬書店（東京・日比谷）

⇧ 名古屋支部を中心に故井に開ける高等文化書籍の一部（東京）

⇧ 山所を見る工業に關する文書（東京）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

⇦ 虫害から林木を守る益鳥の蕃殖を援けることも亦愛林である

⇧ 愛林日に入手の山に植れる

⇧ 森林の中の樹木は火のコバタはつて気を付けること

愛林日

四月四日　農林省

鬱蒼と森林の繁る所國は榮え、その荒廢する所國は衰へる。森林は實に國家の重要な資源であつて、これを愛護することは國民の尊い義務である。

森林の第一の効用は木材の生産である。木材はまづ誰でも知つてゐるやうに建築用材、輸送用材、土木用材、又は枕木用材、電柱用材、車輛用材、器具用材、工藝用材等となり、或は家庭燃料として用ひられる他、紙、人絹、スティプル・ファイバー等の原料であるパルプもやはり木材から製造されるのであるから我々が森林から蒙る恩澤は實に大きいものである。

森林の第二の効用は保安といふ點である。我が國は地勢其の他の關係から特に各種の災害が頻發するが、森林は土砂の崩壊、水害、風害、潮害等を防ぎ、或は水源を涵養する等、國土の保安といふ點から云つても森林の意義は重大である。

又森林は昔から精神修養の道場となり、神社佛閣で鬱蒼たる森に囲まれてゐないものは少いことから考へても、森林が國民の道徳的宗教的訓練に無くてはならぬ背景となつてゐる精神的効用も忘れてはならない。

このやうに森林は國家の重要な資源であり、國民精神修養の道場でもある所から、これに感謝し、これを愛護する精神の普及を目的とする運動は古くから行はれてゐる。外國の例を見ると、米國では千八百七十二年に「樹の日」がネブラスカ州の知事モルトンに依つて定められ、千九百七年にルーズヴェルト大統領が全國の小學校兒童に毎年一日苗植樹の實習を行ふやう命令するに及んで「樹の日」は全國的に盛大に行はれるに至つた。スペインでは千八百九十六年以來小學校に「樹の祭」を催し、千九百四年には之を國祭日と定めた。イタリーでは千九百二年から學校の生徒の爲に「樹の祭」を始め、又ドイツでは千九百二十六年以來毎年ベルリンで「グリューネ・ウオッヘ」（綠の週間）を行つてゐるし、瑞典でも「森林週間」が行はれてゐる。

我國でも朝鮮では明治四十四年以來年約二千萬本内外の植樹を神武天皇祭に行つてゐる。内地では大正十五年に青森縣で「愛林植樹日」を始めたのが嚆矢であらう。

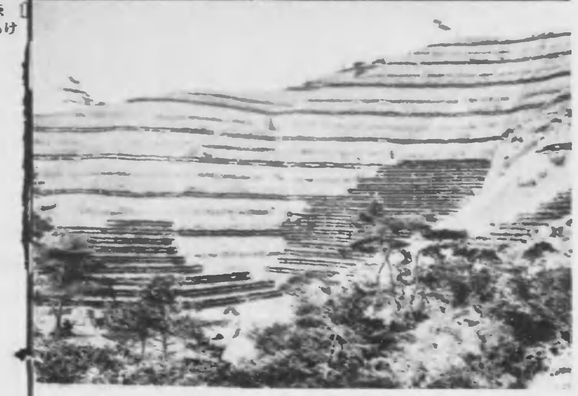
全國的に統一して行はれ出したのは昭和九年以來で、本年はその第五回目に當るが、本年からは四月四日を「愛林日」と定め、毎年墨、消防組合其の他各種の團體が中央、地方協力して造林、手入、養育、牧野林の造成整理、記念植樹、標柱建設、講演會、座談會、映畫會等の開催、ポスターの配付、或は森林火災消防演習等を全國的に行つて、大いに國民一般の愛林觀念を鼓舞することになつた。

愛林は全國民の愛林觀念を鼓舞することであり、又全國民が行はねばならぬことである。一本の樹を植えることが、一本の樹の手入れをすることが愛林の實行であり、或は常に森林を大切にし、森林内では煙草の吸殺に火のついた儘捨てないのも愛林であり、又一本のマッチ、一枚の紙でも、凡そ木で出來るものは總ての消費を節約することが日本の森林の荒廢を防ぐことになり、立派に愛林の精神にかなつてゐる。

近時の戰爭は全體戰爭である、即ち一國の有ゆる資源、國民精神の凡てを擧げて戰爭の目的達成に供しなければならない。戰爭の最後の勝利は充實した國家の資源と旺盛な國民精神に依つてはじめて獲得されるものである。

今や我が國は朝野を擧げて聖戰の眞の目的達成に邁進してゐるが、東洋の平和確立の前途なほ遼遠である。この時にあたつて森林が如何に重要なる國家資源であり、又國民精神修養の道場であるかを知つて、これを愛護することは我等日本人として尊い銃後の使命である。

⇦ 美しき森林―見事な杉及び檜の成育



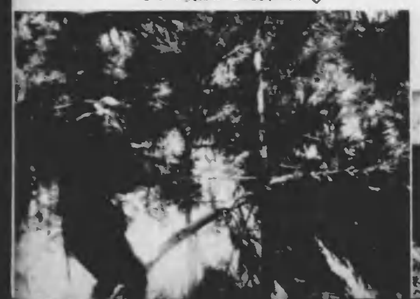
上　裸山から緑の谷へ
裸の山――雨が降れば盛に洪水を起し雪も有害無益だ。

中　苗木は植えられた。
青成十三年後、かつての裸山はかくも見事な樹海となつた。

⇩ 愛林日に苗圃の雑草取り替へ従事する子女

⇩ 一本の樹さへない禿山を立派な山にしやうと一齊に造林作業中の部落勤勞團

⇩ 森林防火演習に活躍する青年團



⇩ 雪害で國有種子が倒れ幼樹に成長するまで必ずこの樹引起し

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

國際經濟週報

世界經濟の一週間

★最近號主要目次

★二月十七日發行
英國海軍の擴張計畫
長期戰體制への進展
蘇聯外事總長ウイシンスキー

★二月二十四日發行
獨逸の經濟統制の近況
英國の戰爭力
國家總動員法を繞る渦卷

★三月三日發行
進展する綜合統制
英國經濟界の動向
英國外交政策の轉回

★三月十七日發行
ゼーランドの世界經濟再建報告書
事變と香港上海銀行
日銀保證準備の限度擴張
浙江財閥の解剖とその行衛

★三月二十四日發行
獨逸統制とカルテルの現狀
英國埃合邦の完成とその波紋
英國再軍備計畫の影響

▲四六倍版（約八〇頁、全部一冊）
「一ヶ年（十二冊）五十錢」
郵便料に要本、書留料金の部は直接
本社へ申込まれたし。
發行人 同盟通信社
東京市京橋區銀座八ノ九
（電話銀座八五〇〇番）

海の彼方

暗雲を孕む前途内閣誕生

二月二日のヒットラー總統とシュニシュニッグ墺首相との會談結果に基き、シュニシュニッグ墺首相は内閣改造を斷行、墺ナチス重鎮インカート氏を内相に迎へ、十六日墺國議會に觀衆的色彩濃厚の新閣僚に問かれた。

何を語るか！

一旦オーストリー改造内閣の内相に就任した墺ナチス重鎮アルフレード・ザイス・インカート氏は二月十七日ベルヒテスガーデンの山莊にヒットラー總統を訪問、重要會議を行つた。

墺ナチ小學生總動員で學校を占領

墺墺無名氏の前に、ウイン大學のナチス系學生は母校の前に大歡迎、ナチス歡歌のヒットラー・ヤング・ユートを奏し、次いで繰り拡るデモンストレーションに移つた。

テルエルに春よみがへる

内亂未だ止まぬスペイン人民戰線側の占領によりテルエル市のフランコ軍支持市民は二ケ月もの間地下壕に逃避生活を余儀なくされてゐたが、フランコ軍の入城に伴つてこの程久方ぶりに春の陽ざしを浴びることが出來た。

英雄開日月あり

ヒットラー總統の月桂冠、今後の墺國合邦によれば新らしくドイツ首相に任ぜられたゲーリング氏（中央）は恒例のポーランド訪問を行ひ、モシツキイ・ポーランド大統領（右）と馬鞭に同乗、狩獵に興じた。

英帝國機械工場視察

英國空軍ジョーンズ伯爵の指揮下にはこの程新設部隊以來はじめてウーリッチの造兵工廠に送られ、御興深げに英國軍備擴充の諸プログラムを遂視されたまはされた。右方は英國最新型高射砲。

米國の大軍演行進

物すごい各種砲身が列をなしてのたうつてゐる米國マンハッタンの海軍造兵工廠。一門前には大砲を載せておいたのが普通であつたが、今日ではこれは國家の榮光となつたのだ。

寫眞募集規定

本誌は「寫眞報國」の一助にもと考へ、出來る限り紙面を開放し讀者のカメラを動員、優秀な技術を持つてゐる。題材は内外時報、國策の宣傳に關するものならば何でもよい。例へば街にも田園にも、或は工場、家庭、學校など到る所に溢る銃後の奮ひ、國民精神總動員風景、或は季節と食糧の面白い組合せなどはどうでせう。一枚の寫眞でも數ひと組の組寫眞でもよく締切期日は決定せず、サイズはキャビネ判以上、掲載の分には薄謝又は記念品を贈呈し版權は當部に帰するものとす。

應募作品は一切返却せず。

内閣情報部

今週のキヤメラ

表紙（陸軍報道部）梅本忠男
種原神宮鎮座遥拝 内閣情報部
黄河へ！黄河へ！ 同盟通信社
盟邦イタリーの素描 外務省國際觀光局
森春雄
大觀社
祖國振興隊 木村伊兵衛
愛林日農林省 梅本忠男
圖書館記念日文部省
海の彼方 同盟通信社

寫眞週報（禁轉載）

昭和十三年三月三十日印刷發行
編輯者 内閣情報部
印刷者 東京市麹町區内幸町
印刷所 内閣印刷局
發行者 東京市麹町區永田町
内閣總理大臣官邸内
大日本印刷株式會社
東京市牛込區市谷
加賀町一ノ二番地

定價
一部 十錢
一ヶ年（前金） 四圓八十錢
（内國郵便に依る場合は八圓九十錢）
一ヶ年分未滿配送御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

寫眞週報配送部
東京市麹町區内幸町一ノ二〇
電話麹町四六八一番
振替口座東京三五八〇〇番

申込所
全國各地官報販賣所
東都書籍株式會社
最寄書店・驛賣店
各地新聞販賣所
寫眞材料店

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫眞週報
昭和十三年二月十二日　第三種郵便物認可　昭和十三年三月三十日發行（毎週一回水曜日發行）　第七號

○

○

（本書の大きさは國定規格A4・『週報』仕樣）

勝つて兜の緒を締めよ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/